

# “仕事をしている”のではなく “自然を楽しんでいる”のです



林 豊さん

くタケノコや野草といった山の幸も自分の手で採って楽しんでいます。住んでいる人たちがみんな温かく、近所の人たちと野菜の交換といった交流があるのも大三島の魅力の一つですね。

仕事は、農業や養蜂・宿泊施設の経営をしています。農業はその年の天候などに左右されるので実際に収穫や収入がどうなるかは予想することがとても難しいですし、養蜂も人の都合によって蜂が動いてくれるということはあり得ないので自然を楽しみつつ自然と格闘しています。そういった所が難しいですね。そのため、宿泊施設の経営など、農業以外にも仕事を作ることで収入面のリスクを分散させています。ただ、何事にもやりがいは感じています。大変な作業である草刈も、刈った後のきれいになった畑の姿を見るときすごく達成感を感じます。農業や養蜂はしんどいことや体力的にきついこともたくさんありますが、自分たちの作ったものを食べてくれ、喜んでくださる人がいるから大変な仕事でも頑張ることが出来ます。また、そうしたお客様の声を聞いた瞬間に農業をしていてよかったなど感じます。

大三島は少子高齢化がとても進んでいてたくさんの課題があります。その中でも一番の課題が少子化による大三島分校の存続問題です。分校が無くなってしまおうと一気に過疎化が進んでしまおうと思うので、高校が継続してくれることが大三島にとって大切だと思います。高校生の方さんには、卒業後も島に残ってくれるか帰ってきてほしいという気持ちもあります。また、これから高齢化がもっと進んでいくと思うので、私たちが大三島、特に宗方地域の発展に貢献していきたいです。特に大三島はどの地域も祭りが盛んな場所なのでもっと秋祭りが盛り上がりてくれたら嬉しいなと思います。

## 【移住を考える人へ】

経験上、移住を考えている場合は、最低3年間は収入が低くても持ちこたえられる資金と、体力や覚悟が必要と感じました。私たちの場合は今治市滞在型農業施設ラントゥーレーベン大三島という施設にお世話になり、そこで農業の勉強もさせていただきました。地域おこし協力隊等の制度を活用するのもよいかもしれませんが、大三島は機械化が進んでいないので、体力も必要となります。また、移住を考えている人は、思い切って早めに決断することが大切です。

## 【プロフィール】

大阪府出身、2003年に大三島へ移住。

## 【仕事内容】

柑橘栽培、養蜂、宿泊施設『うみそら』の経営。  
栽培した柑橘や養蜂により収穫したハチミツの他、  
ジュース、ジャム等の加工品の販売。

私たちが大三島への移住を考えるきっかけとなったのは、ロンドンへの旅行中、大三島出身の方に会って「良かったら、収穫を手伝ってくれない?」と言われたことです。もともと農業をしたくていい場所を探していたので、実際に大三島を訪れてみたところ、自然や人の温かさなどいいなど感じる点が多かったことを強く覚えています。2003年に、大三島に移住しましたが、大三島の魅力は都会にいたら絶対に感じるこのできない、広大な自然の中で農業ができることですかね。家の近くに海があるので、仕事が忙しくない時期には釣りを満喫しています。アジやイカ、タイなどが釣れ、景色を眺めながらおいしい食べ物を自分で採って食べるといえるところも気に入っています。また、海だけでな



林さん夫婦